

■ VR 技術者認定試験・講習会報告

第 9 回バーチャルリアリティ技術者認定試験・講習会 (アプリケーションコース)

■ 企画担当理事より

清川 清 (大阪大学), 神部勝之 (ソリッドレイ研究所),
相澤清晴 (東京大学)

本学会では教科書「バーチャルリアリティ学」に基づき、2010 年 4 月よりバーチャル技術者認定試験講習会および試験を実施している。前半の 1 章から 4 章を対象とする「セオリーコース」と、後半の 5 章から 8 章を対象とする「アプリケーションコース」がある。いずれかの試験合格者には「VR 技術者」の資格を認定し、順序を問わず両方に合格すれば「上級 VR 技術者」の資格を認定している。今回、第 9 回バーチャルリアリティ技術者認定講習会 (アプリケーションコース) を東京大学にて 2014 年 11 月 8 日 (土) に実施した。また、同認定試験を東京大学と大阪大学の 2 地区で 2014 年 12 月 6 日 (土) に実施した。アプリケーションコースの実施は、一昨年の第 7 回以来であり都合 3 回目となる。

安定的に大勢の方々に参加いただけるよう、これまでに様々な工夫を行ってきた。IVRC と連動した案内を試みており、IVRC の説明会においてバーチャルリアリティ技術者認定制度を紹介いただいている。また、企業向けの案内を強化し、体験談などを盛り込んだ認定制度の紹介ホームページを立ち上げている。その結果、最近認定講習会、認定試験ともに 30 名を上回る方々に安定的に参加いただいている。今回は、ややアナウンスが遅くなったものの、講習会受講者 38 名、試験受験者

28 名の方々に参加いただいた。

講師としては、教科書の 5 章から 8 章の執筆に携わった方々を中心に、それぞれの分野で活躍する先生方をお願いした。講習内容は基本的に教科書に沿ったものであり、毎回大幅に改訂する性質のものではない。そこで、講習資料については毎回それぞれの講師の方々に前回の資料を引き継いでいただいた上で、適宜さらなる拡充をしていただいている。試験問題の守秘義務と認定試験の客観性・透明性を確保するため、従前どおり講師の先生方には実際の試験問題の内容を知らない状態で講習を行っていただいた。

試験問題は、これまでと同じく全問記号選択式として、問題作成編集小委員会によって作られた。試験の結果は、100 点満点換算で最高 98.6 点、最低 48.6 点、平均 86.4 点であった。これまでは 80% 程度の平均正答率であり、やや低めの難易度であったといえる。最終的に、28 名中 26 名を合格、2 名を不合格とした (合格率 98%)。

アンケートについて、講習会では内容、レベル、ボリュームともに満足、あるいはちょうど良いという回答が多かった。自由回答では、教科書から逸脱した最新のトピックや講師の研究内容などを盛り込むことについて、両方の意見が寄せられた。教科書を補うためにもある程度逸脱した内容があることは有意義だという意見がある一方で、試験のための講習会なので基本に沿って欲しいとの意見もあった。限られた時間の中でどのような内容を優先すべきか、議論を重ねて改善していきたい。認定試験でも、内容、レベル、ボリュームについていずれも満足、あるいは普通という回答が多かった。従来のアンケート結果と同様、講習会・試験の実施日については土日がよいという意見が多く、大会と連動した日程がよいかどうかは意見が分かれている。当面は大会と別日程の土日開催を継続する予定である。

次回は、2015 年 5 月 11 日 (土) および 2015 年 6 月 1 日 (土) に、セオリーコースを対象とした第 10 回認定講習会・認定試験を予定している。今後の活動に引き続きご支援をいただきたい。



講習会の様子 (東京会場)

■実施記録

●講習会（アプリケーションコース）

日 時：2014年11月8日（土）

会 場：東京大学

（本郷キャンパス工学部2号館241号講義室）

参加者：38名（正会員2名，賛助会員9名，一般会員1名，
非会員6名，学生会員4名，学生非会員16名）

<プログラム>

*「バーチャルリアリティ学」をテキストに使用

○1 時限目 :10:30～12:00

第5章 リアルとバーチャルの融合ー複合現実感

講師：加藤博一（奈良先端科学技術大学院大学 教授）

○2 時限目 :13:00～14:30

第6章 テレプレゼンスタンスと臨場感コミュニケーション

講師：野嶋琢也（電気通信大学 准教授）

○3 時限目 :14:40～16:10

第7章 VR コンテンツ

講師：筧 康明（慶應義塾大学 准教授）

○4 時限目 :16:20～17:50

第8章 VR と社会

講師：廣瀬通孝（東京大学 教授）

●認定試験（アプリケーションコース）

日 時：2014年12月6日（土）10:30～12:00

会 場：東京大学

（本郷キャンパス工学部2号館241号講義室）

大阪大学

（豊中キャンパス サイバーメディアセンター）

参加者：28名（東京24名，大阪4名），欠席者：7名

合格者：26名（正解率70%以上合格）

■アンケート結果

講習会*回答17名

講習会の内容について

満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満
7	5	5	0	0

講習会のレベルについて

高すぎる	やや高い	ちょうど良い	やや低い	低すぎる
0	2	13	2	0

講習会のボリュームについて

多い	やや多い	普通	やや少ない	少なすぎる
1	7	6	3	0

<講習会について参考になった点>

- ・通常の業務だけでは得ることができない情報を得ることができ，大変参考になった。
- ・質問をさせていただき，有用なリファレンスをいただけただけだ。

<講習会に対する意見，感想>

- ・もう少し時間を増やし，実技などを交えて行なって頂けると，なお一層理解が深まります。また技術も日々進歩しているので，教科書の内容だけでは，直ぐに陳腐化する気がいたします。それを補足する意味でも講習会は重要と思います。
- ・終始時間に追われている章とゆったり進む章があったため，時間配分を変えらるともっと良くなるのではないかと感じた。
- ・試験の為の講習という事で，基本的な内容を教える事になるが，どうしても担当する先生の研究の内容が盛り込まれてしまう。その方が良いと思う反面，基本的な内容の講習が少なくなるのも避けなくてはいけないと思った。この講習の目的は，あくまで試験に関わる内容がメインになるので，そこは留意いただきたい。
※先生によって，大分差があったように感じた。
- ・教科書の内容から少々脱線するくらいがむしろ良かった。

認定試験*回答17名。うち2名は受験しなかった。

試験の内容について

満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満
4	7	5	0	0

試験のレベルについて

難しい	普通	簡単
0	12	3

試験のボリュームについて

多い	やや多い	普通	やや少ない	少なすぎる
0	1	14	0	0

<試験に関する意見，感想>

- ・事前に合格ラインを知りたい。
- ・過去問が多く感じた。
- ・今回の合格基準が70点という事であったが，内容的には教科書に載っている事であるので，ちゃんと自習していればとれる内容であるが，年度により合格基準が変わるのは，問題だと思う。
60点でも70点でも良いが，統一してほしい。

個人によって、勉強に割ける時間は差異があるため、合格基準を目標に勉強する、すなわち勉強しない項目(捨てる分野)を作ることもあり、その場合、合格基準が変わると受からなくなってしまう事が十分あり得ると思う。

- ・もう少し、専門色が濃くても良いと思います。

その他

認定講習会の内容を収録した DVD について

利用した	利用しなかった
4	10

認定講習会の DVD の効果について

大変役に立った	少しは役に立った	どちらとも言えない	あまり役に立たなかった	全く役に立たなかった
3	2	8	0	1

講習会 / 試験の実施日について

平日がよい	土日祝日等休日がよい	どちらでもよい
1	11	5

大会との併催について

参加しやすい	どちらでもよい	大会とは別日程がよい
3	10	4

本講習会、試験をお知りになったきっかけについて

ご紹介	学会 HP	学会 ML	Twitter	知っていた	その他
11	3	3	0	0	0

ご自身についてお伺いいたします

学生	修士・博士	研究員	教職	会社員	その他
3	4	0	1	8	1

<講習会・試験についての体験談>

- ・ VR について広く学ぶための大変良い機会になりました。通常業務だけでは得られない知識や情報を得ることができたため、今後の業務に生かしていきたいと思えます。
- ・教科書を読む時間が確保できれば、受かると思います。
- ・学部 4 年生なのですが、現在研究している内容について掘り下げることができると同時に、周辺の知識も得ることができてよかった。

■寄稿募集案内

◆会議・イベント参加報告募集

本学会の会員の皆様向けの出版物における会議・イベント参加報告は、多くの学会員の皆様にご興味を持って読んでいただいている記事の一つであると思います。会員の皆様の活動範囲とご興味の拡大につれ、会議参加報告で取り扱う会議やイベントの範囲も幅広くなってきました。学会誌委員会とニューズレター編集委員会では、世界の VR に関する会議やイベントへの参加報告を広く会員の皆様から募集しております。ニューズレターでは、原則としてテキストのみ、本文 1000 字程度の報告を掲載いたしますが、学会誌では可能であれば図や写真なども付して、半ページから 1 ページ程度を掲載いたします。学会誌委員会とニューズレター編集委員会からなる会議参加報告企画委員会で検討いたしますので、国内外の学会、研究会、展覧会、展示会、今までに取り上げられなかった会議、新しく始まった会議など、本学会員の皆様の興味を引きそうなものについて、お気軽にお問い合わせをいただき、情報をお寄せ下さい。なお、採用された方には、規定に従い薄謝を差し上げます。

◆留学体験記募集

学会誌委員会では、Vol.12 No.2 より連載が開始された「ワクワク留学体験記」の原稿を募集しています。これまで研究室紹介で扱っていた、留学先の研究室を、もう少しだけ感じた感じで留学体験記をメインにご紹介いただくという企画です。留学から帰ったばかり、もしくは留学中の学会員の皆様、ぜひ留学体験記をお寄せ下さい。

詳細については下記にお気軽にお問い合わせ下さい。なお、採用された方には、規定に従い薄謝を差し上げます。

お問合せ・寄稿先：

日本バーチャルリアリティ学会 事務局
学会誌担当

E-mail: vr-edit@vrsj.org